

台湾人中級日本語学習者における 尊敬語と謙讓語の学習上の問題点

陳 文敏*

1. はじめに

敬語の学習が日本語学習者にとって非常に難しい、といったことは指摘されて久しい(小田切 1974)。一方、今 まで日本語学習者の敬語習得・意識等に関する実証研究として、管見の限りでは宮岡・玉岡(2000、2002)、宮田(2004a、2004b、2006)、本間(2008)、黄(2008)などがあるが、さほど多いとは言えない。このうち、宮岡・玉岡、及び宮田の一連の研究はいずれも統計的な手法を使い、主に文法事項、人間関係、母語の影響などとの関わりといった視点から、適切な敬語(尊敬語、謙讓語)選択ができていないかを定量的に見ている。本間(2008)は文化庁の「国語に関する世論調査」の問題をアレンジして調査を行い、日本語母語話者と台湾人中上級学習者における敬語意識について比較研究をしている。黄(2008)はテスト形式のアンケート調査を用い、日本人大学生と台湾人日本語学習者(日本語能力試験3級合格者)の敬語の誤用について比較分析を行っている。それと同時に、彼らの回答と、台湾で最も使用されている教科書『みんなの日本語』にある敬語との相違も考察している。

上記の研究で指摘されている、日本語学習者の敬語習得・意識等に関する問題、例えば「他者敬語よりも自己・身内敬語のほうが難しい(宮岡・玉岡 2000)」などは、筆者も教室現場で実感している。しかし、そのほかに、敬語語彙・表現には何らかの誤用傾向が見られ、そして尊敬語と謙讓語(A、B)の使い分けがどれほどできているか、という問題もあるように思われた。上記の研究では敬語の誤用分析を行っているのは黄(2008)のみであるが、報告されているのは14問のテストの中の3問のみであり、しかも正解と認められた例には授受動詞の使用も含まれているため、敬語そのものの調査とは言いにくい部分がある。そこで、本研究では学習者の誤用にはどのようなものがあるか、尊敬語と謙讓語(の使い分け)を学習者が理解しているかを探るために、台湾人中級日本語学習者を対象に尊敬語と謙讓語の置き換えテストを実施することにした。

2. 調査の概要

本研究で使用する分析資料は、筆者が勤務している大学の日本語学科三年生を対象にしたクラス「商用日文(ビジネス日本語)」で2010年1月8日に実施した置き換えテストの回答である。当テストは一斉配布一斉回収で、約45分間実施した。調査対象は上記のクラスの受講生76名(女性66名、男性10名)

* 靜宜大学日本語学科助理教授

である。¹76名のうち、三年生は60名、四年生は14名、さらにダブルメジャーの学生が2名いる。日本語学習歴で見ると、2.5年57名、3.5年10名、4.5年1名、5.5年6名、6.5年2名となっており、いずれも学習時間数は700時間以上である。²日本語能力試験（旧試験）の受験状況に関しては、1級合格2名、2級合格38名、3級合格20名、無回答16名であった。³上記の学習歴・時間数、日本語能力試験の合格状況から、中級日本語学習者と考えてよいだろう。

置き換えテストを行う一週間前に、受講生には研究のために調査を行うという旨を伝え、小テストのつもりで受けてほしいと説明し、了承を得た。置き換えテストの内容は分析した結果とともに改めて4章で紹介するが、尊敬語への置き換え問題は9問、謙讓語への置き換え問題は11問ある。この11問の問題は授業で練習している問題を元に作成しており、置き換えが必要な語彙・表現もすべて授業で筆者が説明し、練習させたことがあるものである。次の3章では「商用日文」の授業内容を簡単に紹介しておきたい。

3. 「商用日文（ビジネス日本語）」の授業内容

「敬語」についての研究が今まで数多くあり、定義も分類も様々になされてきている。⁴筆者は平林・浜（1988）、菊地（1994）、庵等（2000：314-323）などを参考に、「商用日文（ビジネス日本語）」（以下、本授業）において例1のように敬語を説明している。

- 例1⁵ 敬語とは、聞き手や話題人物に対する敬意を表す表現である（同じ事柄を述べるのに、述べ方を変えることによって敬意 あるいは丁寧さをあらわす、そのための専用表現である）
敬語は次の3つがある。
- ・尊敬語：動作や状態の主体に対する敬意を表現するもの（動作や状態の主体を高める表現）。
 - ・謙讓語：動作の主体を低めることにより、相対的に動作の受け手に対する敬意を表現するもの（謙讓語A）、及び聞き手に対する敬意を表現するもの（謙讓語B、丁寧語とも呼ばれている）の二種類がある。謙讓語Aは動作の受け手に対する敬意を表すものだから、受け手が存在しない動作に謙讓語Aを用いることはない。
 - ・丁寧語：聞き手への敬意を表したり、改まった気持ちで事柄を丁寧に述べるもの。代表的なものは文末の「です・ます」。

以上の説明とともに、多くの教科書で見られる尊敬語の「～られます」、「お

¹ 本調査に協力してくれた学生諸君に感謝の意を表したい。

² 学習時間数はこの授業の開講クラスのカリキュラムによって概算された。なお、700時間は日本語能力試験（旧試験）の認定基準では中級日本語コースを終了したレベルに相当している。（<http://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf> 2010.11.20 検索）

³ 日本語能力試験（旧試験）の受験状況は、2010年6月初めに改めて調査して確かめた。本研究のアンケート調査の実施日2010年1月8日は2009年12月の日本語能力試験が終わって約一ヶ月後で、成績がまだ発表されていなかったためである。なお、無回答には、受験していない、または受験した級数に合格していない、の両方がある。

⁴ 紙幅の関係で詳しく紹介できないが、菊地（1994）第II章（pp.69-90）等を参照されたい。

⁵ 受講生に配っているプリントにおける内容の抜粋である。太字、下線、イタリックはプリントにある表記のままである。

／ご～になります」、「いらつしゃいます、めしあがります」などの特別な形の尊敬語、「～ ています」の尊敬語の「お～です」（「お考えです」等）、及び謙讓語 A の「お／ご～します」、「おります、いただきます」などの特別な形の謙讓語も教えている。それから、DVD 教材《オフィスで使える！マナーも身につく！ビジネス日本語①内定者編（日本映像教育社製作、凡人社出版）》の第 2 巻（敬語 I）と第 3 巻（敬語 II）も使用し、映像教材を見せながら説明し、理解を深めるために、ノートも取らせている。

なお、本調査までの、本授業における敬語に関する授業時間は約 12 時間である。⁶その間、中間テスト（敬語関連の問題が 50%）を 1 回、小テスト（特別な形の敬語語彙の暗記テストと、尊敬語・謙讓語の置き換えテスト）を 2 回、練習問題（選択や穴埋め）も数回行った。このプロセスを経て、上記のように調査の一週間前に受講生に知らせた上で、小テストのつもりで答えてもらった。一週間の準備期間を明示的に与えたため、個人差はあるものの、受講生は敬語について復習してきた状態で調査を受けていると考えられる。

4. 正答と誤答の認定、及び全体的傾向

置き換えテストも問題では、文の一部に下線を引き、尊敬語か謙讓語に直すよう指示した。どちらに直すかは示さず、問題の順番も尊敬語と謙讓語がランダムで並ぶようにした。置き換えテストの問題とそれぞれの正答率⁷を表 1（正解が尊敬語であるもの）と表 2（謙讓語であるもの）に示す。

表 1 正解が尊敬語となる問題内容と正答率

アンケートにおける問題番号・内容	正答率 (%)
01（課長に）課長、コーヒーと紅茶、どちらに <u>します</u> か。	71.1
03（同僚に）この件に関しては、社長も <u>知っています</u> よ。	78.9
08（お客様に）こちらで少々 <u>待って</u> ください。	85.5
09（同僚に）社長はもう <u>帰りました</u> よ。	72.4
12（課長に）課長はコーヒーは <u>飲みます</u> か。	72.4
14（課長に）課長はこの書類を <u>見た</u> でしょうか。	68.4
15（課長に）課長の <u>言った</u> ことは、こういうことでしょうか。	67.1
17（同僚に）部長は明日名古屋から <u>来る</u> んですか。	86.8
19（部長に）部長はこの件についてはどう <u>考えています</u> か。	50.0

⁶ 本授業ではノートテキングを実施しているので、実質的な講義時間や練習時間は 12 時間より少ないと思われるが、計算しかねるため、敬語関連の授業回数の 6 回で 12 時間とする。また、本授業の受講生は本授業で初めて敬語の勉強に接したわけではない。一年生から「読解」、「会話」、「聴解」、「作文」、「翻訳」などの授業でも既習である。

⁷ 正答率は当該問題の正答者数の、全受講生 76 名に対する割合で、小数第二位を四捨五入して計算した。

表2 正解が謙讓語となる問題内容と正答率

アンケートにおける問題番号・内容	正答率(%)
02 (お客様に) 昨日、商談会で初めて御社の山田課長に <u>会いました</u> 。	76.3
04 (課長に) すみません。ちょっと <u>聞きたい</u> ことがあるんですが。	71.1
05 (部長に) 部長のスピーチに <u>感動しました</u> 。	21.1
06 (お客様に) 先日いただいた見積書を <u>見ました</u> 。	69.7
07 (お客様に) 明日、貴社へ <u>行っても</u> よろしいでしょうか。	71.1
10 (部長に) そのとおりに <u>します</u> 。	48.7
11 (お客様に) 今からお手元の資料について <u>説明します</u> 。	63.2
13 (お客様に) 貴社の林課長でしたら、(私は) よく <u>知っています</u> 。	47.4
16 (お客様に) 私、静宜商事の田中と <u>言います</u> 。	78.9
18 (電話でお客様に) すみません。課長の山下は席を外して <u>います</u> が。	78.9
20 (同僚に) 昨日、部長のご馳走でおいしいおそばを <u>食べました</u> よ。	65.8

表1と表2に示したように、尊敬語への置き換えの問題は9問で、謙讓語への置き換えの問題は11問ある。受講生の解答は筆者と日本人教師1名が平林・浜(1988)、菊地(1994)、庵等(2000:314-323)などを参考に話し合っ
て正答か誤答かを認定した。例えば、問題02の「(お客様に)昨日、商談会で初めて御社の山田課長に 会いました。」では、例2にあるように15種類の解答が見られた。正答はa.~f.の6つとし、誤答はg.~o.の9つとした。誤答には、尊敬語(g)、使用できない謙讓語の間違い(hとi)以外に、テンスの誤り(j)、「ます形」の誤り(k)、漢字の誤り(l)、「お~します」の過剰使用(m)、それから受講生が独自の敬語化規則によって作った表現(nとo)が含まれている。

例2	正答	誤答
	a. お会いしました	g. お会いになりました
	b. お会いいたしました	h. お目に掛けました
	c. おめにかかりました	i. 拝見しました
	d. お目にかかりました	j. お目にかかります
	e. お目に掛かりました	k. お目にかかりました
	f. お目に掛りました	l. お目に掛りまいた
		m. 拜見しました
		n. お目になりました
		o. おかかになりました

上記の正答と誤答の認定基準に従って調べたところ、今回の調査の平均正答数は13.4問で、平均正答率は67.0% (13.4/20=67.0%)であった。正解が尊敬語か謙讓語かによって見てみると、尊敬語の平均正答数は6.5問で、平均正答率は72.2% (6.5/9=72.2%)であるのに対し、謙讓語は6.9問の62.7% (6.9/11=62.7%)となっている。尊敬語の平均正答率は謙讓語のそれより10ポイントほど高かった。さらに、各問題の尊敬語の正答率は50.0% (問題19)~86.8% (問題17)であるが、謙讓語の正答率は21.1% (問題05)~78.9% (問題16と問題18)となり、開きは57.8ポイントである。また、謙讓語の正答率が50%未満の問題が3つある(問題05、問題10、問題13)。これらのことから、本調査の受講生、中級日本語学習者は謙讓語を尊敬語ほど理解できていないとい

うことが言えよう。

以下では、誤用のパターン、正答の選択順序、謙譲語 A と謙譲語 B の使い分け、の3点について報告したい。

5. 誤用のパターン

本調査で観察された誤答例は計 498 例ある。この 498 例の誤答を分類した結果、計 33 の誤用のパターンを抽出することができた。そして、その 33 パターンの誤用はさらに下記の①～⑥にまとめることができた。

①正解とは異なる語彙の選択使用による誤用<227 例>

②独自の敬語化規則による誤用<193 例>

③文末のムードの誤用<10 例>

④文末のムードあるいは敬語要素以外の部分の文法の誤用<63 例>

⑤表記の誤用<69 例>

⑥その他<44 例>

それぞれの回答例の数も併せて示したが、「⑥その他」に認定した例を除き、例えば、例3のように、複数の誤用パターンが同じ1つの例に見られた誤用もある。

例3 問題07 (お客様に) 明日、貴社へ 行っても よろしいでしょうか。

回答：いっらしやても

誤用のパターン：

① (イ. 謙譲語が正解の問題で尊敬語の使用)

④ (ヌ. 「て形」の誤り：「ても」の前の促音が抜けている)

⑤ (ハ. 促音の誤り：「い」と「ら」の間の促音)

以下では、まず誤用のパターンとその例を示す。各パターンの回答例の数は<A/B>のように表記する。Aは当該例の数を、Bは当該パターンの間違いの合計数を表す。

①正解とは異なる語彙の選択使用による誤用<227 例>

ア. 尊敬語が正解の問題で謙譲語の使用：(問題 01) いたします<6/48>

イ. 謙譲語が正解の問題で尊敬語の使用：(問題 10) なさいます<29/96>

ウ. ほかの敬語動詞の使用：(問題 18) まいります<1/65>

エ. 非敬語動詞の使用：(問題 16) 相談します<1/18>

②独自の敬語化規則による誤用<193 例>

オ. 「お」+敬語語彙：(問題 12) お召し上がります<9/25>

カ. 「お/ご」の使い分けの誤り：(問題 11) お説明します<5/9>

キ. 「お」の脱落：(問題 04) おうかがいしたい<1/1>

ク. 「お/ご+元の動詞/非敬語動詞」による敬語化：

(問題 19) お考えています<4/17>

ケ. 「お～てください」の使用：(問題 08) お待ってください<1/7>

コ. 「お/ご～します」の過剰使用：(問題 20) お食べしました<1/61>

サ.「お／ご～になります」の過剰使用：(問題 15) おしゃべりになった<1/21>
 シ.「お～になります」の「に」の脱落：(問題 09) お帰りになりました<4/4>
 ス.「お／ご～します」「召し上がります」の「に」の挿入：<22>

(問題 11) ご説明にします<5/19> (問題 12) お召しに上がります<1/3>

セ.「感動／説明」＋「ごぞいます／おります／いただきます」の敬語化：<4>

(問題 05) 感動ございました<1>、ご感動おりました<1>

(問題 11) 説明いただきます<1>、説明おります<1>

ソ.「考えて」＋「なさいます／ごぞいます／いたします／まいります／
 いかがです」の敬語化：(問題 20) 考えてなさいます<3/7>

タ.「お～したい」の「し」の脱落：(問題 04) お聞きしたい<2/3>

チ.「存じて」「うかがいたい」の「し」の挿入：<12>

(問題 13) 存知ししています<5/11> (問題 04) うかがいしたい<1/1>

③文末のムード⁸の誤用<10 例>

ツ.ダ体の使用：<5> (問題 03) ご存知だ<2> (問題 09) ご帰る<1>

(問題 13) ご存知だ<1> (問題 20) いただいた<1>

テ.「ません(か)」の使用：(問題 14) ご覧になりません<1/2>

ト.「ましょう(か)」の使用：(問題 12) めしあがりましょう<1>

ナ.「～てイタダケマス(か)」の使用：<2>

(問題 19) お考えになつて頂けます<1> 考えていただけません<1>

④文末のムードあるいは敬語要素以外の部分の文法の誤用<63 例>

ニ.テンス・アスペクトの誤り：(問題 02) お目にかかります<4/30>

ヌ.「て形」の誤り：(問題 07) 伺いても<2/23>

ネ.「たい形」の誤り：<2> (問題 04) お聞きになつたい<1> うかがいしたい<1>

ノ.「ます形」の誤り：(問題 02) お目に掛りまいた<1/8>

⑤表記の誤用<69 例>

ハ.「おっしゃる」「しゃべる」「いらっしゃる」の促音の誤り：<15>

(問題 15) おっしゃった<7/9>、しゃつべた<1/2>

(問題 17) いっらしやつる<1/3>

ヒ.「もうします」の長音の脱落：(問題 16) もうします<1>

フ.濁音の付加：<16> (問題 10) いただきます<2/4>

(問題 13) 存じています<2/12>

ヘ.漢字の誤り：(問題 14) ご覧になつた<5/34>

ホ.「帰ります」「待ちます」の送り仮名の誤り：<3>

(問題 09) お帰えりになりました<2> (問題 08) お待ちになつて<1>

⑥その他<44 例>

⁸ 「ムード」という用語と定義は益岡・田窪(1992:117-134)に従っている。「ダ体の使用」は「確言」(p.117-118)、「ません(か)／ましょう(か)の使用」は「意志、申し出、勧誘」(p.124-126)、「授受動詞の使用」は「依頼」(p.121-122)とされている。

マ.無変化：<5>

(問題 03) 知っています<1> (問題 05) 感動しました<1>

(問題 09) 帰りました<1> (問題 20) 食べました<2>

ミ.無回答：<18> (例の数と問題番号は下記の通り)

1 例：問題 05、07、11、18、20、09、12、15、17

2 例：問題 04、06、19

3 例：問題 16

ム.分類不可能：<21> (下記の問題が各 1 例)

(問題 01) さないます、おめしあげます (問題 03) ごぞんちです

(問題 05) 感動⁹、感動になりました、感動にしました、
感動したしました

(問題 08) お待ってになって、お待ちになります、待ちして

(問題 09) お帰りになりました、帰るになりました

(問題 11) 説明しだします (問題 12) おめしあげますか

(問題 14) ごりんになった、ごらんだ (問題 15) 召し上げた

(問題 17) しらっしゃる、いらっしゃい、いらっしゃう

(問題 19) お考えていになります

上記の 33 の誤用パターンを見て分かるように、多くの誤用例が①と②に集中している (17 パターンの 420 例)。②が 13 パターンと、三分の一以上を占めており、本調査の受講生が様々な敬語化規則を作っていることが窺える。③～⑥の誤用は敬語に限らず、日本語学習者であれば、様々な語彙・表現で引き起こすものである⑤表記の誤用は、筆記式テストゆえに明るみになったものである。また、今回は行わなかったが、なるべく漢字で書き、振り仮名をつけるよう義務付ければ誤用の数はさらに増加すると考えられる。なお、誤用の数が少ないパターン (例えば、②のセ.~チ.、④、⑥) もあるが、それぞれ同一受講生による回答はさほど多くなく、殆どが異なる受講生の回答であるため記載した。

今回の調査では、受講生に置き換えの回答しか求めず、またフォローアップ・インタビューも実施していないため、本調査の受講生の回答意図はこれ以上確認できず、上記の 6 種類の誤用の原因も正確に把握できない。以下では、推測の域を出ないが、敬語そのものと直接関わっている①、②、及び丁寧さと関係している③について考察したい。

①の誤用の原因は、まず、当然のことながら、敬語語彙・表現をはじめ、回答として記入している語彙・表現の意味や使い方を十分に理解していない受講生がいることが挙げられる。

⁹ この「感動」という回答は「ダ体」とも認められるが、質問文が「～します」で正解が謙譲語である問題 10 と 11 における当該受講生のほかの回答を見てみたところ、それぞれ「なさいます」、「ご説明になります」と答えている。よって、「します」の謙譲語「いたします」を忘れて、問題 05 の回答を「感動」と途中まで書きかけている可能性があるため、ム.分類不可能とした。

②のオ.~チ.のうち、「オ.「お」+敬語語彙」という誤用は25例観察されたが、そのうちの16例は「召し(に)あがります/めしあげます」(問題01、12、20)という語彙に起きている。「召し上がります」という語彙に「お」を付けて誤用した原因は「お召し~」から始まる表現にあるのではないかと思われる。その表現は2つ挙げられる。1つ目は、教科書やテレビなどでよく見聞きする「お召しになりますか/お召し上がりください」である。2つ目は、授業内容と関わっているもので、筆者が授業で提示した「着る」の尊敬語「お召しになります」である。この2つの語彙の最初が「お召し」となっており、一部の受講生に影響を与えていると考えられる。こうした授業内容による影響は、Selinker (1972) が指摘している「訓練上の転移」である。

一方、②のコ.~ス.の4つは主に「お/ご~になります」と「お/ご~します」という表現と関係する誤用である。コ.とサ.はそれぞれの過剰使用 (Selinker1972) だと思われるが、シ.とス.は両表現の「に」の有無による誤りである。さらに、ス.の「お召しに上がります」という誤用は決まって「お」も付いているため、上記の「お召し上がりになりますか」と「お召しになります」が作用しているのかもしれない。

③のテ.~ナ.の3つは共通して、自分の回答と元の質問文の文法や意味との関係への不注意(小林2001)、及び授業内容(「訓練上の転移」Selinker1972)、の2点が関係している可能性がある。例えば、テ.(問題14)では過去形、ト.(問題12)では「コーヒーは」、ナ.(問題19)では「どう」、といった箇所と自分の回答との関係への不注意が考えられる。また、授業で見せたDVDでは、質問の際、否定形の「~ませんか」や「~でしょうか/~ましようか」がより丁寧、という内容があった。加えて、提示された例の中には「~ただけませんか」のような例文が多かった。こうしたことが、これらの受講生に影響を与えている可能性があることは否定できない。

一方、よく話題に上っており、菊地(1994)等でも指摘されている、日本語母語話者のよくする間違いの1つである「二重敬語(例えば、「お/ご~になります」、「おっしゃられます」)」は本調査の分析資料には見られなかった。次の6章で報告するが、本調査の受講生は殆ど「~られます」を使用していない。恐らくそれが原因で、文末が「~られます」となっている二重敬語を産出しにくいのだろうと思われる。

6. 正答の選択順序

本調査の正答から、置き換えの正解が尊敬語にせよ謙讓語にせよ、特別な形の敬語語彙を優先的に選択して使用する傾向が観察された。

尊敬語への置き換え問題のうち、問題03と08では「~られます」が使いにくい、ほかの7問は「~られます」を含め、複数の正解が考えられる。この7問は正解として使用可能な語彙・表現の種類から次の3つのグループに大別

できる①特別な形の尊敬語、「～られます」の両方が使用可能(問題 01、14、15、17の4問)。②「お/ご～になります」、「～られます」の両方が使用可能(問題09、19¹⁰の2問)。③特別な形の尊敬語、「お/ご～になります」、「～られます」の3つが使用可能(問題12の1問)。表3に各問題に見られた正答と、その回答者数と比率をグループごとにまとめたものを示す。

表3から分かるように①グループでは、「～られます」が使用されたのは問題14の「見られた」の6例で、ほかはすべて特別な形の尊敬語という回答であった。②グループでは、「～られます」が見られたのは問題09の「帰られました」の1例、問題19の「考えられています」の2例、計3例のみで、残りはすべて「お～になります」が用いられている。問題12では、「～られます」が全く使用されておらず、「お～になります」が5例で、残りの9割以上が特別な形の尊敬語となっている。上記の結果から、本調査の受講生における尊敬語の使用優先順序は【特別な形の尊敬語→「お/ご～になります」→「～られます」】であると言えよう。この結果は、本間(2008:128)が報告している「台湾人学習者はレル敬語にあまり馴染んでいない」とことと通じるものがある。

表3 尊敬語が正解となる問題における正答と正答者数

グループ	問題番号	使用された正答(名)<%>	全正答者数
(A)	01	なさいます(54)<71.1%>	54名<100.0%>
	14	見られた(6)<11.5%>	6名<11.5%>
		ごらんになりました(3)<5.8%>	46名<88.5%>
		ご覧になりました(7)<13.5%>	
ごらんになった(12)<23.1%>			
ご覧になった(24)<46.2%>			
15	おっしゃった(51)<100.0%>	51名<100.0%>	
17	おいでになる(1)<1.5%> いらっしゃる(65)<98.5%>	66名<100.0%>	
(B)	09	帰られました(1)<1.8%>	1名<1.8%>
		お帰りになりました(54)<98.2%>	54名<98.2%>
	19	考えられています(2)<5.3%>	2名<5.3%>
		お考えになっています(26)<68.4%> お考えになっていらっしゃいます(2)<5.3%>	28名<73.7%>
考えていらっしゃいます(8)<21.1%>		8名<21.1%>	
(C)	12	お飲みになります(5)<9.1%> めしあがります(7)<12.7%> 召し上がります(43)<78.2%>	55名<90.9%>

注：比率<%>は当該正答者数の、当該問題の全正答者数に対する割合である。

次に、正解が謙譲語となる問題における正答の回答状況であるが、結果を見る前に謙譲語の使用可能語彙・表現の実情について述べておきたい。謙譲語は

¹⁰ 問題19には「考えていらっしゃいます」という正答が含まれているように、「考えて」と「います」を分けて、それぞれ如何に置き換えられるか、どんな組み合わせが観察されるかを考えるべきである。しかし、今回の調査では正答として「～ていらっしゃいます」も認められる問題はほかに問題03の「知っています」のみであるが、受講生の回答には「ご存知/存じ/ぞんじです」という正答しか観察されなかった。よって、6章では「考えて」という部分のみに着目することにした。

「お／ご～します」という表現、及び「おります、参ります、伺います」などの特別な形の謙讓語の2種類のみである。「～られます」という表現もある尊敬語と比べて、種類が少ない。そして、3章で触れたように、「お／ご～します」などの謙讓語Aは動作の受け手がいる場合にしか用いられない。つまり、使用できる場面も限られており、正確に使い分けなければ間違いとなってしまう。従って、謙讓語では特別な形の謙讓語の使用がほぼ必然的になり、その頻度が尊敬語より相対的に高くなる。

本調査における謙讓語が正解となる問題のすべてが、正答に特別な形の謙讓語を含んでいる。そのうち、「お／ご～します」と特別な形の謙讓語のどちらも用いられる問題は問題02、04、11の3問ある。この3問の正答と正答者数を表4に示した通りである。

表4 謙讓語が正解となる問題における正答と正答者数

問題番号	使用された正答(名)<%>	全正答者数	
02	お会いしました(1)<1.7%> お会いいたしました(1)<1.7%>	2<3.4%>	58名
	おめにかかりました(1)<1.7%> お目に掛りました(3)<5.2%> お目に掛りました(21)<36.2%> お目にかかりました(31)<53.4%>	56<96.6%>	
04	お聞きしたい(4)<7.4%>	4<7.4%>	54名
	うかがいたい(18)<33.3%> 伺いたい(32)<77.8%>	50<92.6%>	
11	ご説明します(21)<43.8%>	21<43.8%>	48名
	ご説明致します(1)<2.1%> ご説明いたします(11)<22.9%>	12<25.0%>	
	説明致します(1)<2.1%> 説明いたします(14)<29.2%>	15<31.3%>	

注：比率<%>は当該正答者数の、当該問題の全正答者数に対する割合である。

表4の通り、問題02と04では特別な形の謙讓語のほうが9割以上使用されている。問題11では「ご～します／いたします」の使用率が高いように見えるが、「ご～します」と「いたします／致します」に分けて考えると、過半数が後者の特別な形の謙讓語である。前述したように、謙讓語では特別な形の謙讓語の使用頻度が相対的に高いこともあって、当然の結果に見えるかもしれない。しかし、「お／ご～します」という選択肢があるにも関わらず、特別な形の謙讓語が問題02と04では9割以上、問題12では6割弱用いられている。この結果から考えてみると、本調査の受講生は謙讓語を使用する際、尊敬語と同様に特別な形の敬語語彙を優先的に選択している可能性が示された。ただし、本調査ではこうした問題は僅か3問であり、今後さらなる調査が必要である。

尊敬語にしても、謙讓語にしても、本調査の受講生が特別な形の敬語語彙を優先的に選択して解答した理由の1つは授業内容と関係していると思われる。具体的には下記の3点が挙げられる。

(一)「～られます」という語彙の意味のことである。一般的に「～られます」

についての説明は受身形や可能形と同じ形のため、要注意とされている。受講生は誤解されないように、「～られます」の使用を普段から避けているのかもしれない。

- (二)それぞれの語彙・表現が表す敬意のことである。尊敬語は「特別な形の尊敬語」→「お/ご～になります」→「～られます」、謙譲語は「特別な形の謙譲語」→「お/ご～します」のように、敬意が下がっていく。こうした説明を本調査の受講生は様々な授業で受けている。彼らはより高い敬意を表現したい、または「特別な形の敬語語彙」を使っておけば間違いにはならないだろうという考え方によって、「特別な形の敬語語彙」を優先的に選択する可能性があると考えられる。
- (三)受講生の、担当教師(筆者)の期待への思い込みである。3章でも紹介したように、本授業では今回の調査までには尊敬語と謙譲語の特別な形の敬語語彙に関する小テストや練習を数回行っていった。何回もやっているうちに、担当教師が望んでいる回答は「特別な形の敬語語彙」、という意識が受講生の中に形成されてしまっている可能性があることは否定できない。

7. 謙譲語 A と謙譲語 B の使い分け

謙譲語の回答において観察されたのは、受講生は受け手が必要な「謙譲語 A」と、受け手がなくても使える「謙譲語 B」の使い分けができていないという現象である。具体的に言うと、謙譲語 A のほうが解答としてより適切で自然だという問題で謙譲語 B を用いた受講生が少なくなく、逆に謙譲語 B のみが正答となる問題で謙譲語 A を答えた者がいた。これについては以下に例を挙げながら説明していく。

まず、謙譲語 A がより適切で自然な解答でありながら、謙譲語 B が多く解答された問題は、問題 07 と問題 11 の 2 つである。問題 07「(お客様に)明日、貴社へ 行っても よろしいでしょうか。」は 71.1%の正答率であるが、正答は例 4 のように大きく謙譲語 A「伺っても」と、謙譲語 B「参っても」の 2 種類に分けられる。

例4 (正答)	謙譲語A 34.2% (26名)	謙譲語B 36.8% (28名)
	うかがっても (10.5%)	まいっても (18.4%)
	伺っても (23.7%)	参っても (18.4%)

「参っても(まいっても)、以下「参っても」を正答とするかどうかは人により見解が分かると考えられるため、ここでその判断の基準について述べておきたい。菊地(1994:258-261)は「訪ねる先がⅡ人称者の場合には、右のようは 筆者注:「③では、明日[あなたの]お宅に伺います。(「訪ねる」意)」という文)「お宅に伺います」「お宅にまいります」どちらを使ってもよい」と述べており、授業でもそのように説明した。問題 07 はこの状況と類似したもので、Ⅱ人称者であるため、「参っても」も使われてよいことになる。ただし、

菊地（1994：258-261）は「「まいる」は聞手のいるときに限り「まいります」の形で使うのが普通」とも指摘しており、蒲谷等（1998：97）も「「まいる」は必ず「ます」を伴って用いられる」と論じている。従って、問題07で「参る」という用語を使うのであれば、「参りまして」とすべきであろう。しかしながら、「参る」は必ず「ます」を伴って用いるというようなことは本授業の受講生には説明していなかったため、ここでは「参っても」も正答と見なすことにした。

問題07では聞き手であるお客様が「行く（訪問する）」という動作の受け手であるため、謙讓語A「伺っても」のほうがより適切で自然だと思われるが、丁寧に述べて聞き手への敬意を表す謙讓語B「参っても」の解答のほうが2名（2.6%）多かった。「伺う」と「参る」の違いを理解していない受講生が少なくないように思われる。

問題11「（お客様に）今からお手元の資料について説明します。」の正答率は63.2%となっているが、問題07と同様、例5に示すように謙讓語A「ご説明します/いたします」¹¹と、謙讓語B「説明いたします」の2つが観察され、両方正答とした。謙讓語Aの解答率が高かったが、謙讓語Bを答えた者が15名いた。

例5（正答）	謙讓語A 43.4% (33名)	謙讓語B 19.7% (15名)
	ご説明します (27.6%)	説明いたします (18.4%)
	ご説明いたします (14.5%)	説明致します (1.3%)
	ご説明致します (1.3%)	

一方、問題05「（部長に）部長のスピーチに感動しました。」と、上の問題11は「＜漢語系の熟語＞します」という共通点がある。ただし、問題05「感動します」という動作は受け手がなないため、正答は謙讓語B「感動いたしました」のみである。この問題11と問題05で、両方とも正確に謙讓語Aと謙讓語Bを使い分けて正解した者は7名の9.2%に止まっている。問題05に正解した受講生は16名で、正答率が21.1%と、今回の調査では一番低く、謙讓語A、及び疑似謙讓語A（形が似てはいるが、文法が間違っている）で誤答した者が32名（42.1%）いる。例6にその解答と解答者比率を示す。

例6（誤答）	謙讓語A 31.6% (24名)	疑似謙讓語A 10.5% (8名)
	ご感動いたしました (3.9%)	お感動しました (3.9%)
	ご感動いたします (1.3%)	お感動します (1.3%)
	ご感動致しました (1.3%)	お感動にしました (2.6%)
	ご感動しました (25.0%)	ご感動にしました (1.3%)
		ご感動にします (1.3%)

¹¹ 「ご説明いたします」のように、「ご/お～いたします」は菊地（1994：245-250）では「謙讓語AB」と捉えられている。しかし、受講生にはその概念が難しいと筆者が判断し、「謙讓語A」と扱っている。本研究でも「謙讓語A」と見なす。

さらに、正解か不正解を問わず、置き換え箇所の動詞を（疑似）謙譲語 A か謙譲語 B のいずれかに変更するという傾向が見られた。問題 05 と 11 の両問題とも謙譲語 A または疑似謙譲語 A で解答した者は 29 名（38.2%）で、謙譲語 B で解答した者は 9 名（11.8%）である。つまり、両問題とも同様の方法で置き換えている者は 38 名でちょうど 50.0%となる。むろん、受講生が実際どういう意図で解答しているかはさらなる調査、またはフォローアップ・インタビューの実施によって確かめる必要があると思われる。しかし、上記の観察から、受講生は謙譲語 A または謙譲語 B への置き換えを、違いを把握せずに機械的に行なっている可能性があると言えよう。

また、問題 05 と同じく、謙譲語 B のみが正答であるが、謙譲語 A の解答もあった問題は、ほかに問題 16、問題 20 の 2 つがある。問題 16 「（お客様に）私、静宜商事の田中と 言います。」、及び問題 20 「（同僚に）昨日、部長のご馳走でおいしいおそばを 食べました よ。」の正答率はそれぞれ 78.9%、65.8%と低くはないが、例 7 のように謙譲語 A、または非文法的な疑似謙譲語 A を使っている者がいた。

例7	問題16の誤答例	問題20の誤答例
	謙譲語A：申し上げます 6.6% (5名)	疑似謙譲語A： ご馳走いたしました 1.3% (1名)
	疑似謙譲語A：お言います 1.3% (1名)	お食べしました 1.3% (1名)
		お食べにしました 1.3% (1名)

例 7 における誤答例は、例 6 と同様に、受け手が存在しない動作で謙譲語 B しか用いられない状況で、謙譲語 A または疑似謙譲語 A を使用してしまった例である。さらに、受講生が独自に作った表現である「お／ご感動にしました」、「お言います」、「お食べしました」なども観察された。

例 4～例 7 を併せて考えてみると、受講生は謙譲語 A と謙譲語 B の使い分けができていないと結論付けてよいだろう。さらに、4 章の全体的傾向で述べた「受講生は謙譲語を尊敬語ほど理解できていない」ことの要因となる結果でもあろう。

8. まとめ

本研究では台湾人中級日本語学習者 76 名を対象に、尊敬語と謙譲語の置き換えテストを実施した。その結果、以下の 4 点について報告した。(1) 受講生の回答から 498 個の誤用例が観察された。この 498 例から計 33 の誤用パターンを抽出し、それらを 6 種類に分類できた。そのうち、尊敬語と謙譲語の使い分けと直接関係しているのは 2 種類の 17 パターンで、420 例あった。(2) 謙譲語の正答率は尊敬語ほど高くない。(3) 尊敬語でも謙譲語でも特別な形の敬語語彙が優先的に選択される傾向がある。(4) 受け手が必要な「謙譲語 A」と、受け手がなくても使える「謙譲語 B」の使い分けができていないようである。

上記の結果、特に学習者の誤用パターンが多岐に渡っていることから、敬語の学習が容易ではないことを改めて窺うことができた。特に謙讓語が困難であることが確認された。本研究の結果は限定的な面があることは否めないが、今後これらの結果を参考にして敬語関係の授業の改善に活用していきたい。

付記 本稿は 2010 年世界日語教育大会（2010 年 7 月 31 日台湾政治大学にて開催）で行った口頭発表に加筆・修正を施したものである。なお、匿名の査読者の先生方から大変有益なコメントをいただいた。ここに記して心より厚く御礼を申し上げたい。

参考文献

- Selinker L. “Interlanguage.” *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching* 10 (1972): 209-231.
- 小田切隆、「敬語表現の周辺」『日本語教育』24号、(日本語教育学会、1974) 29-36
- 小林典子、「第4章 誤用の隠れた原因—誤用の原因はいろいろなところに潜んでいる」、『日本語学習者の文法習得』、(大修館書店、2001) 63-81
- 平林周祐・浜由美子、『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 10 敬語』、荒竹出版、1988
- 本間美穂、「台湾人学習者の敬語使用状況について—日本語母語話者との比較を通して—」、『台湾日本語教育論文集』第12号、(台湾日語教育學會、2008) 105-134
- 宮田剛章、「中級中国語学習者の敬語動詞の誤用訂正能力」、『都大論究』41号、(東京都都立大学国語国文学会、2004a) (24)-(34)
- 、「中国語学習者が構築した敬語動詞の中間言語—文法性判断テストと確立モデルを用いて—」、『計量国語学』第二十四巻第四号、(計量国語学会、2004b) 171-197
- 、「敬語動詞における日本語学習者の中間言語の量的研究—中国人および韓国人学習者と日本語母語話者との比較から—」、『日本語科学』第19号、(国立国語研究所、2006) 5-29
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄、「中国語学習者の敬語習得」『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、(日本語教育学会、2000) 134-141
- 、「上級レベルの中国語系日本語学習者と韓国語系日本語学習者の敬語習得の比較」、『読書学会』、第46巻第2号、(日本読書学会、2002) 63-71
- 益岡隆志・田窪行則、『基礎日本語文法—改訂版—』、くろしお出版、1992
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリーエーネットワーク、2000

菊地康人、『敬語』、角川書店、1994

黄佩柔「日本人学生と台湾人学生に見られる敬語誤用の傾向について」『フェリス女学院大学日文大学院紀要』第15号、(フェリス女学院大学日文大学院、2008) 1-10

蒲谷宏・川口義一・坂本恵、『敬語表現』、大修館書店、1998